

# インストール・バージョンアップ

## Mercury-ONE

FCアカウントの「インストール・バージョンアップ」サービスを利用して、最新のプログラムをインストールする手順を解説します。

※ 動作環境については、巻末(5ページ)をご覧ください。

### 1. ライセンスの更新は、お済みですか？

バージョンアップを行う場合や、オプションプログラムを追加する場合は、ライセンスを更新しないとプログラムを使用することができません。

まだ更新していない場合は、先にライセンスの更新をおこなってください。

### 2. プログラムをダウンロードしてインストールします

プログラムをダウンロードしてインストールする方法には、次の2種類があります。  
お客様のご利用環境に適したインストール方法を選択してインストールしてください。

#### ▼ 【スタンドアロン運用限定】インターネットから直接インストール

Mercury-ONE をインストールするコンピューターで、更新プログラムをダウンロードして、直接インストールします。  
インストール開始までの時間が短く、簡単な操作で最新のプログラムに更新する事ができます。

※ スタンドアロン で使用している場合のみ、こちらからインストール可能です。

P.2へ

#### ▼ 【サーバー運用はこちら】全体ファイルを保存

一旦コンピューターのハードディスクに、インストールに必要なファイルを、全てダウンロードして保存します。  
保存したファイルを別のメディア(DVDやUSBメモリなど)に複製することで、複数のコンピューターへのインストールに使用することができます。

※ サーバークライアント(共同編集あり) または サーバークライアント(共同編集なし) で使用している場合は、必ずこちらからインストールしてください。

※ スタンドアロン で使用している場合も、インストール可能です。

P.3へ

### 3. その他のツール類は、必要に応じてダウンロードしてご利用ください

#### ▼ 各種ツール[テンプレート・フォーマットなど]

「表題欄テンプレート」「.NET Framework有効化ツール」など、各種テンプレートやツール類です。

# インターネットから直接インストール

Mercury-ONE のプログラムをダウンロードして、直接インストールします。(スタンドアロンのみ)

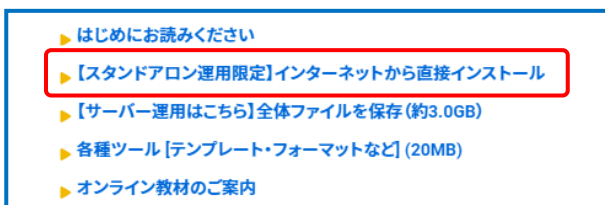
※ サーバークライアント(共同編集あり) または サーバークライアント(共同編集なし) の場合は、  
次ページ:「全体ファイルを保存してインストール」  
の手順でインストールしてください。

1. 「インストール・バージョンアップ」のページにある Mercury-ONEの「インストール」ボタンをクリックします。

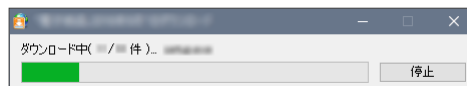


メニューが表示されます。

「【スタンドアロン運用限定】インターネットから直接インストール」をクリックします。

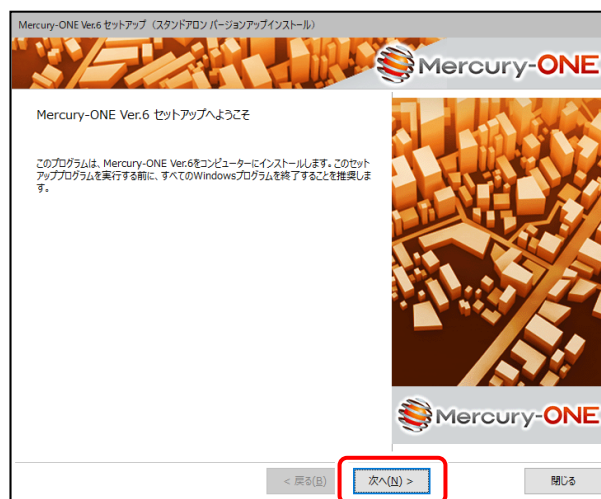


2. ダウンロードが開始されます。



3. ダウンロードが完了すると、セットアップ画面が表示されます。

表示される画面に従って、インストールを進めます。



以降の手順については、以下のリンク先のPDFファイルをご覧ください。

(※ リンクをクリックした際にセキュリティ警告が表示された場合は、「許可」をクリックしてください。)

- 新規インストールの場合 (コンピューターに、Mercury-ONEがインストールされていない場合)

[「セットアップガイド」の 12ページ～ を参照してください。](#)

- オプション追加の場合 (コンピューターに、同バージョンのMercury-ONEがインストール済みの場合)

[「Mercury-ONE オプション追加編」の 15ページ～ を参照してください。](#)

- バージョンアップの場合 (コンピューターに、旧バージョンのMercury-ONEがインストール済みの場合)

[「Mercury-ONE バージョンアップ編」の 15ページ～ を参照してください。](#)

# 全体ファイルを保存してインストール

複数のコンピューターで Mercury-ONE をお使いの場合は、「全体ファイルを保存」を利用してDVDやUSBメモリにコピーして使い回した方が、ダウンロード時間を短縮できます。

インターネットに接続していないコンピューターにインストールする場合や、接続回線が遅いなどの場合にも、ご利用ください。

※ ご利用の通信環境、時間帯によっては、ダウンロードに時間がかかる場合があります。  
 そのようなときは、別の時間帯で再度お試しください。ダウンロードを中止しても、また続きから再開されます。

1. 「インストール・バージョンアップ」のページにある Mercury-ONEの「インストール」ボタンをクリックします。

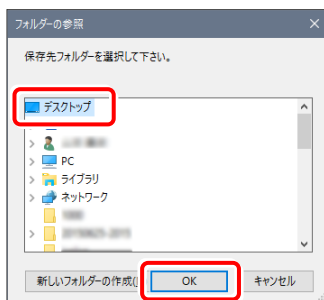


メニューが表示されます。

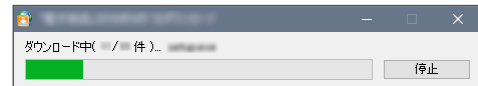
「【サーバー運用はこちら】全体ファイルを保存」をインストールをクリックします。

- ▶ はじめにお読みください
- ▶ 【スタンドアロン運用限定】インターネットから直接インストール
- ▶ 【サーバー運用はこちら】全体ファイルを保存(約3.0GB)
- ▶ 各種ツール [テンプレート・フォーマットなど] (20MB)
- ▶ オンライン教材のご案内

2. ダウンロードする全体ファイルの保存先を選択して、[OK]をクリックします。



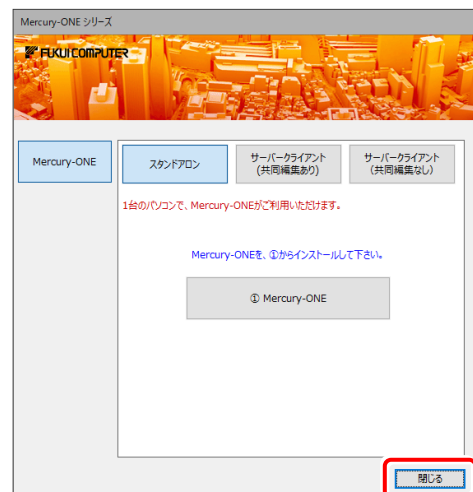
3. ダウンロードが開始されます。



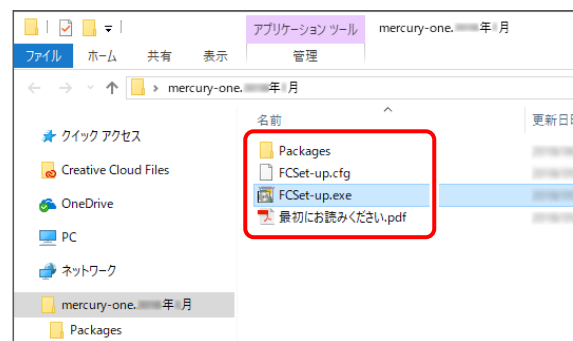
※ ダウンロードを中止するには、上記画面で[停止]をクリックしてダウンロードを一時停止してから、[X]ボタンでダウンロードをキャンセルしてください。

4. ダウンロードが完了すると、セットアップ画面が表示されます。

[閉じる]をクリックして画面を閉じます。



5. 複数のコンピューターのインストールに使用する場合は、エクスプローラーなどを利用して、ダウンロードした全体ファイルをDVDやUSBメモリに書き込みます。



以上で、全体ファイルの保存は完了です。

続いて次ページへ進み、プログラムをインストールします。

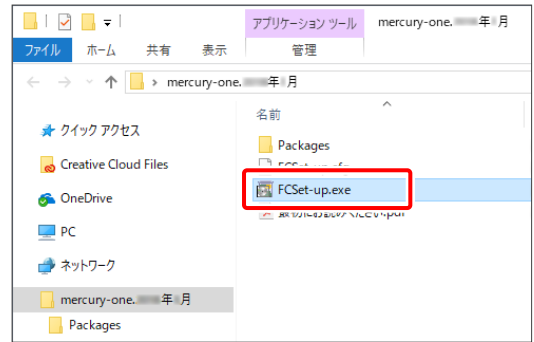
**6.** ダウンロードした全体ファイルを使用して、プログラムをインストールします。

● サーバークライアント(共同編集あり)(共同編集なし)の場合

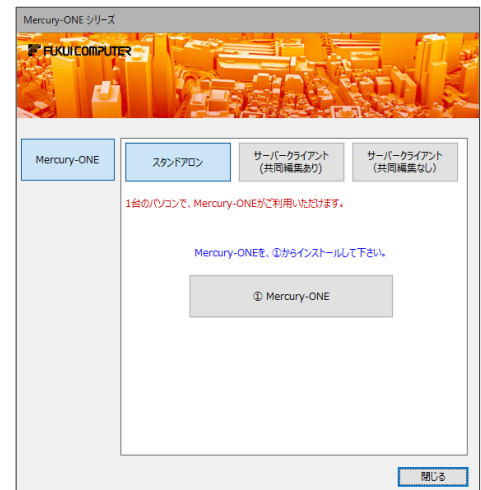
ダウンロードした全体ファイル内の "FCSet-up.exe" を、サーバーで実行します。

● スタンドアロンの場合

ダウンロードした全体ファイル内の "FCSet-up.exe" を、Mercury-ONEをインストールするコンピューターで実行します。



**7.** セットアップ画面が表示されます。



以降の手順については、以下のリンク先のPDFファイルをご覧ください。

(※ リンクをクリックした際にセキュリティ警告が表示された場合は、「許可」をクリックしてください。)

● 新規インストールの場合 (コンピューターに、Mercury-ONEがインストールされていない場合)

[「セットアップガイド」の 11ページ～ を参照してください。](#)

● オプション追加の場合 (コンピューターに、同バージョンのMercury-ONEがインストール済みの場合)

[「Mercury-ONE オプション追加編」の 14ページ～ を参照してください。](#)

● バージョンアップの場合 (コンピューターに、旧バージョンのMercury-ONEがインストール済みの場合)

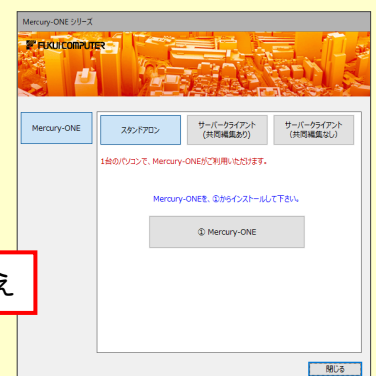
[「Mercury-ONE バージョンアップ編」の 14ページ～ を参照してください。](#)

※ リンク先のPDFとは、セットアップ画面が異なりますが、セットアップの流れや手順は同じです。画面を置き換えてお読みください。



リンク先のPDFの  
セットアップ画面

置き換え



# Mercury-ONE 動作環境

対応OS	クライアントOS	Windows11 バージョン21H2 (64bit) Windows 10 November 2021 Update バージョン21H2 (64bit)										
	サーバOS(※1)	Windows Server 2022 (64bit) Windows Server 2019 (64bit) Windows Server 2016 (64bit) Windows Server 2012 R2 (64bit) Windows Server 2012 (64bit)										
CPU	推奨 Core i7 (最低 Core i5 以上) :Intel社製 Celeronでは動作しません。											
必要メモリ	推奨 8.0GB (最低 4.0GB 以上)											
必要HDD容量	2.0GB 以上											
必要解像度	推奨 1920×1080 (最低 1366×768 以上)											
その他	<p>VIDEO : OpenGLをサポートするグラフィックボード(3Dビュー表示時) VIDEOメモリ : 64MB以上(推奨128MB以上、3Dビュー表示時) Google Earth(TM)に関する機能については、Google Earth(TM)をインストールする必要があります。</p> <p><b>Microsoft Office(Excel) : CAD連携機能</b></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>バージョン</th> <th>サービスパック</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>365 (32/64bit)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2019 (32/64bit)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2016 (32/64bit)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2013 (32/64bit)</td> <td>SP1 以降</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「ストアアプリ版」のOfficeがインストールされている環境では、一部機能が正常に動作しません。 「デスクトップアプリ版」のOfficeをご利用ください。</p>		バージョン	サービスパック	365 (32/64bit)		2019 (32/64bit)		2016 (32/64bit)		2013 (32/64bit)	SP1 以降
	バージョン	サービスパック										
365 (32/64bit)												
2019 (32/64bit)												
2016 (32/64bit)												
2013 (32/64bit)	SP1 以降											

(※1)ネットワーク環境は、TCP/IPプロトコルが動作する環境(100BASE-TX推奨)が必要です。

※ Windows11,10のデスクトップ環境における「タブレットモード:ON」での動作は保証外です。

※ 動作確認テストは、動作環境で行っております。

※ Windows11,10以外のアップグレードしたOSでの動作は保証外です。

※ 仮想マシン上での動作は保証外です。

※ 上記動作環境は、2023年1月時点のものです。動作環境は予告なく変更する場合があります。商品により、動作環境が異なる場合があります。

※ 必要HDD容量は、データの大きさにより異なります。

※ CPUは、Intel社製 Coreに限ります。

※ プログラムのインストール時にDVD-ROMドライブまたはネットワーク環境などのDVD-ROMを認識できる環境が必要です。

※ プログラムのインストール先としてNASのご利用はできません。またデータを直接NASに保存することは推奨できません。

※ データやLANプロテクト等のルーター越えでの運用はプログラム動作保証外です。

ルーター越えの運用とは、場所の離れた拠点(例えば支店や営業所)から本社に設置しているサーバにあるデータやLANプロテクトのライセンスを取得するケースとなります。

※ ヘルプ機能を利用するためには Microsoft Edge WebView2 ランタイムが必要です。